

小児看護学実習

I. 目的 小児の特徴を理解し、小児とその家族に適切な看護ができる基礎的な知識・技術・態度を修得する。

II. 目標

1. 健康な乳幼児の成長・発達と生活の養護を理解する。
2. 小児特有の疾病および症状を理解し、それに伴う苦痛緩和への援助を行う。
3. 患児の成長・発達を理解し、日常生活の援助を学ぶ。
4. 疾病が小児とその家族に与える影響を理解する。
5. 小児の看護に必要な看護技術の基礎を知る。

実習目標および行動目標	実 習 内 容
1. 健康な乳幼児の成長・発達と生活の養護を理解する。	(1) 乳幼児の形態的成長、精神・運動機能の発達の理解 (2) 子どもの年齢や基本的生活習慣の自立状況に合わせた援助
2. 小児特有の疾病および症状を理解し、それに伴う苦痛緩和への援助を行う。 1) 患児の疾病の病態生理、検査、治療内容が述べられる。	(1) 治療方針・治療内容 (2) 患児の病態生理と入院中の経過 (3) 児の変化に合わせた症状の観察
2) 患児の疾病に伴う苦痛を理解し、緩和するための援助を考えることができる。	(1) 苦痛になっている症状や日常生活の制限の理解 (2) 症状緩和への援助 (3) 安静や日常生活の制限に対する援助
3. 疾病や入院が小児や家族に与える影響を理解する。 1) 患児が疾病や入院によって受けた影響を述べられる。	(1) 患児の疾病や入院に対する理解度 (2) 不安、恐怖などの訴え、もしくはそれに相当する行為の有無 (3) 退行現象の有無 (4) 治療の拒否
2) 家族が患児の疾病によって受けた影響を述べられる。	(1) 家族の疾病に対する理解度 (2) 不安、恐怖、自責などの心理状態 (3) 家庭内役割の変更による心身の疲労 (4) 同胞の健康状態や家族の生活の変化
3) 家族への援助の必要性がわかる。	(1) 心身の疲労や不安の緩和 (2) 教育的活動
4) 患児への遊びの援助の重要性が理解でき	(1) 発達段階に応じた遊びの選択・実施

<p>る。</p> <p>4. 小児の看護に必要な看護技術の基礎を知る。</p> <p>1) 患児とその家族とコミュニケーションがとれる。</p> <p>2) 小児の療養に適した環境を整えることができる。</p> <p>3) 基本的な小児の看護技術の目的・方法を理解し、見学・実施できる。</p> <p>4) 外来看護の役割が述べられる。</p> <p>5) 成長・発達を支えるために、様々な援助の場があることを理解できる。</p>	<p>(2) 患児にとっての遊びの重要性</p> <p>(1) 患児の発達段階に応じた接し方の工夫 (2) 養育者の気持ちを尊重した態度と対応 (3) 母子関係を尊重したコミュニケーション (4) 援助の際のわかりやすい説明の仕方</p> <p>(1) 年齢にあわせたベッドの選択とリネンの準備 (2) 発達段階を踏まえた、起こりやすい事故の理解と予防対策の実施 (3) 感染防止のための外来の構造・設備の理解と実施</p> <p>(1) 技術チェックリストに基づき見学・実施 (2) 年齢に応じた技術の工夫 (3) 小児科での検査・処置の援助 (4) 入院時、退院時の看護</p> <p>(1) 年齢に応じたコミュニケーションの工夫 (2) トリアージ、診察時の援助、検査・処置の援助 (3) 家族に対する支援（ケアに対する支援、療養生活に対する支援、育児支援と健康支援）</p> <p>(1) 成長・発達を支える様々な職種があることを知る (2) 病院以外で行われている援助の実際を見学する</p>
--	---

Ⅲ. 実習単位：2単位 90時間

Ⅳ. 履修学年・学期・実習施設

保育所実習（滝川市内保育所）		13時間
こども発達支援センター実習	：3年次 後期	3時間
（滝川市こども発達支援センター）		
病院実習（病棟実習：砂川市立病院、予防接種・小児科外来見学：滝川市立病院）		
	：3年次 後期	29時間
学内実習	：3年次 後期	45時間

Ⅴ. 実習方法

- ・ 保育所実習では、健康な乳幼児の成長発達と生活の養護を見学する。
- ・ 病院実習では患児もしくは事例患児の看護過程を展開する。またその期間に、診察や検査・処置の見学、患児や家族とのコミュニケーションをはかる。